

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和3年度第3回）議事概要

日 時：令和3年6月25日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、北川雄光理事、飯野奈津子理事、北川昌伸理事、
小野高史監事、増田正志監事、島田中央病院長、大津東病院長

I. 前回（令和3年度第2回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を北川（昌）理事と増田監事に依頼。

II. 審議事項

1. 令和2年度業務実績評価及び第二期中長期目標期間実績評価について
資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 人材育成や業務運営の評価をAからSにするための戦略は何かあるのか。
-センターとして行ってきた様々な取り組みをしっかりとアピールし、適切に評価してもらうことが大事だと思う。第二期中長期計画では評価指標が1項目しかなかったが、今年度から始まっている第三期中長期計画では評価指標を8項目に増やしている。そこでは人材育成の様々な取り組みについてカバーできるような評価指標を設けたので、この点を伸ばしていき、センターの人材育成の取り組みを的確に評価してもらえるようにしていきたい。
- ・ S評価を目指すということで各独立行政法人が努力をしているわけだが、非常にハードルが高く目標達成は難しいのではないかという印象を持っている。
-中長期計画の数値目標は、今までの実績をベースに妥当かどうかを議論した上で設定している。その数値目標に対して120%以上の成果があったものがA評価、さらにそれを世界的な視点から見て唯一無二だと言えるものがS評価になるので、Sを付けるのは絶対的評価になる。そういった部分はセンターとしても真摯に受け止めて評価しているが、総合的に見たときの判断での自己評価となっている。
- ・ 人材育成に関する事項について、指標に対する達成度が120%で、質的な部分もかなり進歩しているという点をぜひ強調していただき、評価に結びつくようにしていただきたい。

III. 報告事項

1. 産学連携・知財関連実績報告

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・大学と比較してNCCのほうが成果が上がっているというのは、何か理由があるのか。
-理由は主に2点ある。1点目は企業との早期の連携である。早い段階で知財を紹介し導出していくことにより、企業には知財にかかる経費のスポンサーになっていただいている。2点目は厳しい特許の出願時点での価値評価と棚卸である。通常、大学だと保有件数はどんどん積み上がっていくのだが、センターの特許というのは毎年増えておらず、一定数を保つような形で保有している。
- ・NCCは出口戦略がしっかりしていて素晴らしいと思う。大学は知財を出した時点で終わりであり、かつそれが蓄積して放置されやすいが、NCCはその出口まで管理できているということで見習うべき点だと感じた。
- ・知財財産収支が多ければ多いほど評価が高くなるのか。
-多ければ多いほど評価が高くなるということもあるが、知財を呼び水にしてその後の共同研究や開発自体を進めていく材料にもなると考えている。

2. 研究職のテニユア付与（10年問題への対応）について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・テニユアで残っていただく方は、研究所の外に向けた活動に関する能力を持った人が良いと思うが、その点はどのように考えているのか。
-外部に対するアピールも重要なポイントであり、広い意味では、業績の中に公的な学会等におけるリーダーシップというような評価項目を加えるのが良いのではないか思っている。原則、テニユアになっていただく方は研究所の分野長になっていただくことを想定しているので、そのレベルになった方にはぜひ在籍していただきたいというのが我々の狙いである。

3. 6月の賞与支給について

資料に沿って報告された。

4. 障がい者雇用率の状況について

資料に沿って報告された。

5. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

6. 広報実績等

資料に沿って報告された。

7. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

8. 5月分医業件数等

資料に沿って報告された。

9. その他

【主な意見等】

- ・知財の話に関連して、国立大学等ではベンチャーに出資することでの展開がかなり行われていると思う。厚労省所管としては憚られるというような話があったが、キャピタルゲインが民間に流れ出てしまうのは残念なので、そういった点で風穴を開けていただければと期待している。

-厚労省所管の法人という枠組みの中での制約があるが、その中でも変えていくことは必要だと考える。例えばベンチャーを育成し、開発研究において単なる公的研究費だけではなく色々なリソースを活用できるような仕組みなどを広げていき、開発の機会を増やしていくのは非常に重要なことだと考える。

理事会終了後、増田監事より監事退任に伴うご挨拶があった。